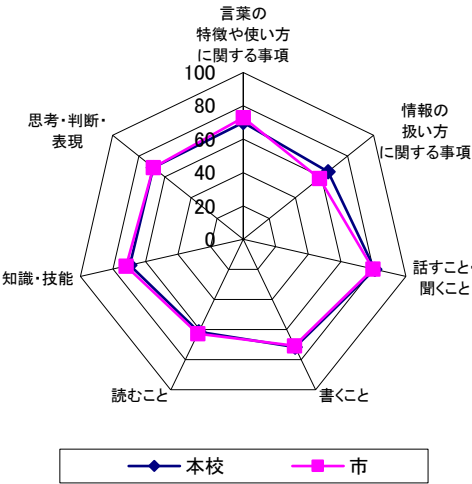


宇都宮市立清原北小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	70.0	73.0	75.5
	情報の扱い方に関する事項	65.0	58.5	59.0
	話すこと・聞くこと	80.8	79.8	75.9
	書くこと	71.7	70.7	71.7
	読むこと	61.4	62.8	62.5
観点別	知識・技能	69.6	72.0	74.4
	思考・判断・表現	68.9	69.0	68.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は、市の平均を3ポイント下回っている。 ○●6年生の漢字の読みの正答率は、80～95%だったが、5年生の漢字の書きの正答率は40%～90%と問題によって差が見られた。 ●敬語の使い方の問題は、市の平均と正答率はほぼ同じだったものの、尊敬語は40%と低かった。	・漢字の学習については、引き続き家庭学習や朝の学習の時間などで計画的に取り組ませていく。 ・日常生活の中で敬語の指導を継続的に行い、語彙を増やし、同音異義語や敬語などの使い方を身に付けさせる。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は、市の平均を7ポイント上回っている。 ○報告する文章を書く問題は、市の平均正答率を上回った。特に、情報と情報をとの関係について理解し、目的に応じて文章を簡単にまとめて記述する問題では、正答率が65%と市の平均を7ポイント上回った。	・資料の内容を読み取って文章に適切に書き表す活動は、社会など他教科でも取り組み、定着を図る。また、新聞を活用した活動を取り入れ、情報の扱い方について学ばせる。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。 ○話の内容を明確にするための話し手の工夫に関する問題の正答率は90%と高く、市の平均とほぼ同じだった。	・聞く力・話す力の育成を図り、話し手の意図を考えながら聞く力や、自分の立場を明確にして話す力を身に付けさせる。また、話し合い活動を充実させ、全ての児童に司会者等の役割を経験させ考えをまとめるなどの機会を設ける。
書くこと	平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。 ○●自分の意見とその理由を明確にして書ける割合は82.5%と高かったが、「指定された長さで書く」「2段階構成で書く」などの条件をきちんと満たして書ける割合は65%であった。無回答も15%だった。	・定められた条件の中で文章を書く機会を意識的に設け、文章を書くことに慣れさせる。また、内容的な条件を満たして文章を書く指導を行い、相手の意図を正確に捉え、自分の立場や考えを明らかにして考えを述べられるようにする。
読むこと	平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。 ○物語文の登場人物の様子について描写を基に捉える問題の正答率は80%と、市の平均を6ポイント上回った。また、表現の効果を考える問題の正答率は45%だったが、市より6ポイント高かった。 ●説明文においては、文章の論の進め方を捉える問題の正答率は50%と、市の平均を15ポイント下回った。	・物語文では、授業において情景描写と人物の心情の関連に気付かせ、より深い心情表現を理解させる。また、工夫して音読するなど、登場人物の心情を理解させる指導を継続して行う。 ・説明文では、段落ごとの要旨や文章構造をまとめる活動に取り組ませるとともに、筆者の考えが記述されている部分を丁寧におさえ、筆者の意図を正確に捉えられるようにする。